

Q 課題は、どうやって見つけているのか知りたいです。(何番の)子は何が課題だったのか、それに向かって何の練習をして、分かったことやできるようになったことはあったのか。あまり積極的でなかったりする子にどのように課題をもたせて、意欲を持続させたらよいのか。技能の高い子には、飽和せず意欲を持続させるために課題をどうもたせているのか。

A 課題は、ワークシートや手本動画、教師からの積極的な声掛けで見付けさせました。(何番の)児童は「早くまたぎ越す」を課題としていました。はじめは歩いてまたぎ越していましたが、ハードル間を走ったり、タイミングが合ったときには止まらないでまたぎ越せたりできるようになってきました。教師側も「踏み切りの練習が大事なのではないか」「ミニハードルでリズム等の感覚を掴ませることが大事なのではないか」等、児童が適切な学びを選択できるよう指導方法を検討しています。技能が低い児童も高い児童も、技能が近い友達と励まし合って練習することで、意欲が維持できると考えました。また技能が高い児童は、見本動画や自分の映像を見ながら、学びを進めるよう教師から声掛けしました。技能が近い児童と練習することで、意欲が維持できた面もあると思います。課題を見付けられていなかったり、正しい解決方法になっていなかったりすることも考えられるため、授業の中で、一回は確認をする時間を設けました。

Q 子供同士で、こつやよい動きの共有の場面がありませんでした。全体でも時間をとらなかったの、どう共有していくのか。

A 手本動画や振り返りカードを見ながら、こつやよい動きについて考えました。授業の中でも共有できるよう、アリエスタイムや振り返りの時間に、再確認していく必要があると感じています。

Q 別れて個で取り組んでいたように見えました。もったいないなと思いました。できない子だけでいたらよい動きを見る機会はありません。うまい子だけならいつか飽和してしまいそうだと思います。個での活動のあと、グループにしてもいいのかなと思いました。きっとグループにしなかった意図はあるのだと思いますが、グループの方が対話が生まれ主体性などは育まれるのではないかと思います。

A 技能の低い児童と高い児童を同じグループに組むことのメリットも検討しました。技能の低い児童はタブレットにある手本動画を見たり、技能の高い児童の様子を見たりして自分の練習ができるので、無理に組む必要はないと考え、あのようなグループ活動にしました。上でもお答えしましたが、技能の高い児童が退屈することを防ぎたいというねらいもありました。グルーピングについては、単元やねらい、活動内容に応じて検討していく余地があると考えています。

貴重な御意見・御質問、ありがとうございました。